

全木連時報

11月25日(水曜日)
(第620号)(毎月25日発行)
平成21年(2009年)

発行所
社団法人 全国木材組合連合会
編集人 尾 蘭 春 雄
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215
URL http://www.zenmoku.jp



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

木材産業振興大会でパネルディスカッション

「木のまち・木のいえ」推進をテーマに将来を語る



前月号既報のとおり、第四十四回全国木材産業振興大会が十月二十三日に東京・丸の内東商ホールで開催された。合法木材の普及利用に取り組みなどをうたった大会宣言決議を採択した第一部に続き、第二部では「木のまち・木のいえ推進と木材業の将来」をテーマにパネルディスカッションが行われ、主に建築分野における木材利用の現状が報告されたほか、今後、木材利用を推進する上でどのような取り組みが必要になるのかについて議論が交わされた。

木を利用する 技術の普及を

(安藤直人氏)

パネラーは安藤直人・東大大学院農学生命科学研究科教授、三井所清典・芝浦工業大学名誉教授(アルセッド建築研究所代表)、青木宏之・全建連会長、小野田富男・全木連副会長。司会はフリーアナウンサーの青山佳世氏。

各パネラーの冒頭発言の中で、安藤氏は「木材産業の今後にはエールを送る」として、「木を使ってそこに住む人とハードとしての木造建築がきちんとつながることが重要だ。そこに研究も実務も焦点を当てる必要がある」と強調。具体的には「樹木を木質の材料に転換すること、木造の建物をどんどんつくるのが重要だ」と語った。

さらに「環境問題においては、いよいよ木材はその中心となり、スーパースターになりうる。それを実現するためにどうするかをものづくりの視点に立ってやっとなかなかない。木の文化を継承するだけでなく、技術をとことん追求し、それを普及して需要を生む。この普及するという行動

目次

- 一面～二面 木材産業振興大会のパネルディスカッションで将来を語る 栄えの叙勲・褒章
- 三面 農林水産祭で木材PR 木材産業の融資に関するアンケート結果
- 四面 景況調査 木材会館見学会

おめでとーございませう
栄えの叙勲・褒章 (21年秋)

(木材振興関係のみ掲載、敬称略)

- 旭日双光章 兒玉 辨二(広島)
- 旭日双光章 吉村 昭(福島)
- 黄綬褒章 嶺木 昌行(愛知)
- 黄綬褒章 前田 剛(奈良)
- 黄綬褒章 久我 三郎(兵庫)
- 黄綬褒章 黄綬褒章

が非常に重要だと思っている」と述べ、技術開発を進めるとともにその成果を事例へとフィードバックし、社会への普及を図ることが重要だとの考えを示した。また、その具体的な例として、東大農学部 弥生講堂など、自身が関わって実現した木造建築事例をスライドを交えて紹介した。

木材業界に対しては「みなさんが起こさなければならぬのは『木配り運動』とエール。今後『木ーワード』として環境、教育、暮らし、健康、心のそれぞれの頭文字にちなんだ「かきくけこ」を提案し、それらすべてに関わりながら木材の利用推進に取り組みべきだとの考えを強調した。

木造が支持されるのはこれから

(三井所清典氏)

三井所氏は「地域材を活かすすまいとまちをつくる時代の到来」として、戦後の木造不遇の時代から現代までの経緯を総括。まず言及したのは、昭和三十四年に建築学会が「木造建築は国を滅ぼす」として木造建築禁止を宣言したこと。宣言の背景となったのは、関東大震災で焼け、第二次世界大戦で爆撃されて焼け、伊勢湾台風で戦後の軽い木造建築が被害を受けたことなど。それらを踏まえて木を使う建築はやめようと言った



同氏によると、この宣言に象徴されるように当時は木造に対する理解が少なく、木材の利用に関して「教育投資も建築投資もない」(三井所氏) ままに時代が過ぎた。それが転換点を迎えたのは昭和五十年代の後半から六十年前後。「当時の建設省が地域適合型住宅に取り組みHOP E計画を打ち出し、林野庁がモデル木造を推進した」ことが今の時代の出発点となったとの認識を示し、佐賀県・有田や山形県・金山でのHOP E計画の取り組みを紹介した。

三井所氏は、それらによる経済効果の大きさや山と製材と設計、建築が協働するきっかけとしての意義を強調し、「新しい建築が木造でできるようになったのはHOP E計画やモデル木造から始まった。そして木造が国民の支持を受ける

外装材の需要増に期待

(青木宏之氏)

青木氏は長期優良住宅先導的モデル事業に関する全建連の取り組みについて「部材を太くすること」で基準をクリアした。会員各社で昨年は全国で五百棟建てたが、国産材は問題なく入手できた」と紹介。全建連のモデルは一坪あたりの木材使用量が一立方メートルと一般的な木造住宅の倍近くもあると説明した。



時代はこれからだ」と将来への期待を表明した。

林業・木材業界の課題回復が重要

(小野田富男氏)

小野田氏は「私が木材業界に入ったのは昭和三十四年。五十年前の当時は原木価格が製品価格の半額くらいだった。それが今は(製品価格に対する)原木価格の割合が著しく低下している。山に対して申し訳ない気持ちだ」と林業がはなはだしく疲弊しているとの認識を示した。

山の状態については「森林の蓄積量は増えているが、中身が問題。七十年生や八十年生の立派な木が少なく、スギなら本来は赤身が基準になるはずなのに、白太まで入れなければならぬ基準になっていく」と利用面からすると十分に生育しているとは言えない現状を指摘した。

これからの日本林業・木材産業のあり方については、ドイツの例と比較しつつ、成長量に対する生産量が少ないこと、製材工場の規模や生産性が劣っていることなどの問題を克服することが必要との認識を披露。住宅需要に関しては、新設着工が六十万戸という低水準に落ち込むことも想定して、それでも関連産業が食べていけるような生産・供給体制を整える必要があると強調した。

最後に各パネラーが「木材というの大きく使う、乾かして使う、ぬらさずに使うということを広く理解してもらえよう努力が必要」(小野田氏)、「伝統的な在来工法の仕口を残さないといけない。木材の調湿性能や断熱性能などはデータで示すべき」(青木氏)、「日本の建築や住宅を見直すには、ちゃんとした時間と費用も必要だと川上から川下まで声をそろえて言えるようになれば展望が開ける」(三井所氏)と将来に向けて提言。

その上で安藤氏が「木材と建築は切り離せないということを改めて確認し、木材の総合的な利用を考えていただきたい。安売り競争から木材の価値を説明して売っていく時代であり、建築の方から説明し、消費者に情報公開する時代。木材の材は木偏に『才』と書く。才を取り入れて活動してください」と締めくくった。

農林水産祭で木の良さをPR 日曜大工教室を開催



農林水産団体の展示・即売と、都道府県による郷土農林水産物の展示・即売等が行われた。

このフェスティバルの林産部門として全木連が世話役となり、木材利用推進のPRの場所として、各種のパネルを配布するとともに、関係団体及び関係機関の協力を得て、次の催し物を行った。

参加団体(十三団体)

(社)全国木材組合連合会、全国森林組合連合会、全国天然木化粧合板工業協同組合連合会、全国木材防虫JAS協議会、全国木

宅機械ブレカット協会、(財)日本合板検査会、日本合板工業組合連合会、日本集成材工業協同組合、(財)日本住宅・木材技術センター、日本特用林産振興会、日本複合床板工業会、日本木材防腐工業組合、NPO法人活木活木(いきいき)森ネットワーク

協力機関
日本日曜大工クラブ。
催しの内容

「日曜大工教室」

日曜大工クラブの会員が指導にあたり、踏み台、書類箱等あらかじめキット加工したものを製作した。無料とあって参加希望者が多く、人数制限をするほどの盛況であった。

木材産業の業況等に関するアンケート結果 先行きも厳しさを続く

全木連が、林野庁の依頼により五月に引き続き九月に行なった「木材産業の業況等に関するアンケート」の結果によれば、製材業の業況については、五月に比べ「非常に厳しくなった」、「やや厳しくなった」が合わせて六十八%、半年先の見通しは六十三%が「更に悪くなる」としている。資金繰りの状況も「厳しくなった」、「やや厳しくなった」が合わせて五十九%と、依然と厳しい状況が続いている。

一方、金融機関の貸出し姿勢に別掲) 五月に引き続き九月に行なった「木材産業の業況等に関するアンケート」の結果によれば、製材業の業況については、五月に比べ「非常に厳しくなった」、「やや厳しくなった」が合わせて六十八%、半年先の見通しは六十三%が「更に悪くなる」としている。資金繰りの状況も「厳しくなった」、「やや厳しくなった」が合わせて五十九%と、依然と厳しい状況が続いている。

農林水産省と(財)日本農林漁業振興会主催の平成二十一年度(第四十八回)農林水産祭「実りのフェスティバル」が十一月六日及び七日の二日間、東京都江東区有明の東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開催された。天候にも恵まれて多くの入場者で賑わった。

木材産業の業況等に関するアンケート結果概要

1. 5月と比べて業況はどのように変化したか

	回答数	割合
非常に厳しくなった	48	30%
やや厳しくなった	60	38%
変化なし	34	21%
良くなった	17	11%

2. 5月と比べ資金繰りの状況はどのように変化したか

	回答数	割合
非常に厳しくなった	30	19%
やや厳しくなった	63	40%
変化なし	62	39%
容易になった	4	2%

3. 5月と比べた金融機関の貸出し姿勢の変化

	回答数	割合
きめ細やかな対応	23	14%
変化なし	96	59%
融資枠(与信枠等)の減額要求がやや強くなった	11	7%
かなり強くなった	5	3%
審査が厳しくなった	27	17%

4. 5月と比べた金融機関の返済条件の変化

	回答数	割合
非常に厳しくなった	12	8%
やや厳しくなった	26	17%
変化なし	112	72%
緩和された	5	3%

5. 5月と比べた金融機関の担保等の要求変化

	回答数	割合
変化なし	124	82%
担保要求が強くなった	10	7%
債務保証の要求が強くなった	15	10%
その他	2	1%

6. これから半年の業況の見通し

	回答数	割合
更に悪くなる	100	63%
当面変化なし	51	32%
回復に向かう	7	4%

7. 雇用調整助成金等注(中小企業緊急雇用安定助成金を含む)の利用状況

	回答数	割合
現在利用	32	21%
利用を検討中	42	27%
今後も利用予定なし	74	48%
以前利用したが今回は考えていない	7	4%

8. 5月以降の雇用調整状況

	回答数	割合
派遣労働者等正社員以外の雇用量を削減	13	8%
正社員を含め、雇用を削減	27	17%
雇用を維持	105	66%
雇用人数を増加した	14	9%

9. 今年5月以降の公共事業関連資材の受注状況

	回答数	割合
公共事業関連資材の受注増	16	12%
変化なし	64	48%
公共事業関連資材の受注減	53	40%

景況調査＝全木協

21年10月分集計表 ()内は実数

〔流通部門〕

モニター数106 回答数71 回収率67%

当月の状況

販売量	増加21% (15)	変わらず52% (37)	減少27% (19)
仕入量	増加21% (15)	変わらず49% (35)	減少30% (21)
販売価格	上昇4% (3)	変わらず89% (63)	下降7% (5)
仕入価格	上昇10% (7)	変わらず87% (62)	下降3% (2)

来月の見通し

販売量	増加24% (17)	変わらず61% (43)	減少15% (11)
仕入量	増加21% (15)	変わらず61% (43)	減少18% (13)
販売価格	上昇3% (2)	変わらず93% (66)	下降4% (3)
仕入価格	上昇7% (5)	変わらず90% (64)	下降3% (2)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	13% (8)	77% (47)	10% (6)
南洋材	16% (9)	82% (45)	2% (1)
北洋材	12% (7)	78% (45)	10% (6)
国産材	7% (5)	72% (48)	21% (14)
建材	12% (7)	67% (38)	21% (12)

乾燥材取引の頻度	増加 22% (14)	変わらず 75% (48)	減少 3% (2)
----------	----------------	------------------	--------------

〔製造部門〕

モニター数117 回答数72 回収率62%

当月の状況

販売量	増加28% (20)	変わらず37% (26)	減少35% (25)
仕入量	増加23% (16)	変わらず45% (32)	減少32% (23)
販売価格	上昇6% (4)	変わらず81% (58)	下降13% (9)
仕入価格	上昇14% (10)	変わらず75% (53)	下降11% (8)

来月の見通し

販売量	増加28% (20)	変わらず61% (43)	減少11% (8)
仕入量	増加30% (21)	変わらず62% (44)	減少8% (6)
販売価格	上昇6% (4)	変わらず90% (64)	下降4% (3)
仕入価格	上昇17% (12)	変わらず79% (56)	下降4% (3)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	18% (5)	71% (20)	11% (3)
南洋材	9% (2)	86% (19)	5% (1)
北洋材	9% (2)	78% (18)	13% (3)
国産材	8% (5)	63% (37)	29% (17)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内 92% (11)	1ヵ月 0% (0)	1ヵ月以上 8% (1)
---------------	-------------------	---------------	-----------------

木材会館
見学会を実施

十月二十三日に開催した全国木材産業振興大会に併せて、大会参加者を対象に東京新木場に完成した「木材会館」(建物の概要は七月号で紹介)の見学会を十月二十三日と二十四日に行い、合わせて約百名の参加があった。
特に、大会翌日の二十四日は、会館のオーナーである東京木材間



屋協同組合の吉条良明理事長(全木協連会長)が解説、案内役にあたり、詳細かつ機微にわたる説明で好評であった。

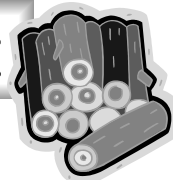
平成21年6月からスタート!

フォレストサポート保証



- ◎ 経営支援のためのセーフティネットとして、運転資金は最大8,000万円まで無担保保証が受けられます
- ◎ 連帯保証人は組合・会社の場合、代表者1名でもOK

保証のご利用の限度額を引き上げました



- ◎ 保証限度額を4億円まで(会社の場合)
- ◎ 無担保保証の限度額を2億円まで etc

林業・木材産業事業者の方々に必要な事業資金の債務保証を行います

独立行政法人 農林漁業信用基金 (林業部門)

〒101-8506 東京都千代田区内神田1丁目1番12号(コービル11階)
TEL 03(3294)5581 FAX 03(3294)5595 URL www.affcf.com